

行事の見直しに取り組んだ実践

岐阜市立長良中学校

1. 目標

「①児童生徒につけたい力や教育的効果等を考慮し、行事を精選している（セルフチェックシートよ
り）」に関する課題を踏まえ、運動会や合唱発表会等の行事の見直しを通して、生徒につ
けたい力や教育的意義を見直し、教育的効果をできるだけ落とすことなく、かつ教職員
の業務改善を図る。

2. 実践の内容

- ・ 行事の見直し
- ・ 合唱発表会での取組の例（運動会でも同趣旨の見直しを行った。）

従前：コロナ禍以前に毎年実施されていた学級財産発表会の「長良祭」が12月に位置付け
4月の年間計画 6月：学年合唱交流会 12月：長良祭 1月：学年合唱交流会 直前の月から取組

見直しの考え方：充実感、所属感、連帯感を深める、合意形成力を育てるために必要な行事の在り方

- ・ なぜ、なんのために合唱交流会を行うのか。ベルトコンベアのようにないか。
- ・ やらないよりはやった方がいいかもしれないが、子供、教職員のためになっているのか。
- ・ 歌い方の指導という名で、子供も教職員も心理的なつらさを抱えてきたのではないか。
- ・ 他の学級と比べてたり比べられたりして子供も教職員も競争原理があおられていたのではないか。
- ・ そもそも日程的に、授業以外の日程が過密になったり、子供も教職員も疲弊したりしていたのではないか。
- ・ 合唱を楽しめている子供と楽しめていない子供いたのではないか。
- ・ マイノリティの子供の気持ちをどうくみ取ってマジョリティの中に組み入れるか。

行事の見直しの結果：異学年の有志での合唱交流会

- ・ 生徒会執行部発案で、有志で合唱練習を開始。2週間の昼休み程度の練習とした。
- ・ 合唱をする、照明をする、動画を編集する、楽しく聴くなど、それぞれの立場で参加。
- ・ 生徒会担当、教務主任で生徒会執行部を指導。
- ・ ロイロノートを活用し、生徒会執行部が会の企画、運営、練習計画、原稿づくりなどを行い、教師とも共有。

3. 評価結果

【取組内容】9月の運動会の内容をコロナ禍以前に戻すことなく必要な見直しを行ったり、
12月の「合唱」を担当の負担を軽減した形で開催したりした。

- ・ 9月～12月の勤務時間（全職員）を平均2時間軽減することができた。
- ・ 令和4年4月の残業時間が45時間以上だった教員のうち、令和4年度に対し、令和5年の9月～12月の残業時間を半数以上の教員が軽減させることができた。

	9月	10月	11月	12月	平均
R4	65	61	54	48	57
R5	63	58	53	48	55

表 9月～12月の全職員の残業時間比較

- ・ 行事を見直すことで11月、12月に「年休取得強化月間」を設けることができ、8割以上の教員が、予め申請することで月初めから時間割を編成し直し、計画的に年休を取得することができた。

4. 成果と課題

(1) 成果・・・子供たちの実態に応じて「どのような行事を通してどのような力をつけていけるようにすべきか？」を検討の中心にすることで、これまでの生徒に負担をかけていた部分を見直すことができた。また、それが教師の負担になっていたことが分かり、業務改善につなげることができた。同時に三者懇談の見直し、部活動の見直し、ICTの活用なども効果を上げることができた。

(2) 課題・・・前年踏襲で取り組んでいる行事についてさらに見直していく。